

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (63) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(63)—

1. 始めに

前報(62)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回からヴァイオリンソナタです。

Westminster WL 5109

モーツアルト Violin and Piano Sonata G-Major-Minor

Violin and Piano Sonata B Flat Major

Walter Varylli (ヴァイオリン)

Paul Badula Scoda (ピアノ)

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、Columbia、逆相、第4時定数 Low で聴いていきます。

モノラル盤で、レンジも広くありませんが、Varylli の艶のあるヴァイオリンの音色と Scoda の煌びやかなピアノを垣間見ることができます。

Varylli の演奏は銜いなく、控えめで端正な演奏であり、Scoda の煌びやかなピアノが花を添えています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの

総合的な効果として、Varylli と Scoda の演奏の特徴を捉えることができました。

以上